

2018年度(平成30年度)ノロウイルス等検出状況

2019年(令和元年)3月31日現在
環境保全研究所

2018年度(平成30年度)に発生したノロウイルス等による食中毒等集団感染事例(疑い事例も含む)の調査において、当所で21事例の検査を実施したので、その検査状況を報告する。

21事例のうちノロウイルスが検出されたのは12事例(57.1%)であった。疑い事例は年間を通じて認められたが、ノロウイルスが検出された事例は春季、秋季～冬季に発生した。なお、夏季(7月～9月)に発生した集団感染事例は、いずれも病原細菌が原因であった(図1)。

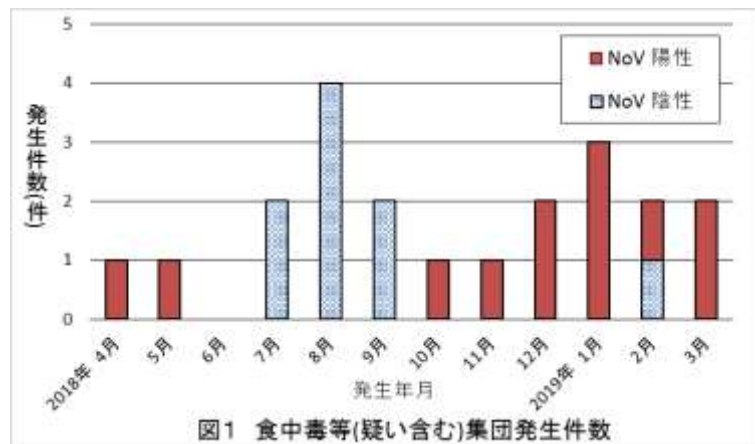


図2は、検出されたノロウイルスの遺伝子型別発生件数と定点あたりの感染性胃腸炎患者届出数(定点あたりの報告数)を示した。ゲノグループ別の検出状況は、GIが1事例(8.3%)、GIIが10事例(83.3%)、GIとGIIが共に検出されたのは1事例(8.3%)であった(図2)。検出されたウイルス株を事例ごとに無作為抽出し、ダイレクトシーケンス法によりVP1領域(GI:381bp、GII:387bp)の塩基配列を決定することで遺伝子型別を行ったところ、GIはGI.7が1事例、GIIはGII.2が5事例、GII.4が4事例、GII.3が1事例で、GIとGIIが共に検出された1事例はGI.2とGII.2であった。



例年、事例から頻繁に検出されるゲノグループはGIIで、その遺伝子型は市中にまん延するウイルス株に依存しており、シーズン毎に変遷が認められる。2018年度の12月までに検出された遺伝子型のほとんどはGII.2であったが、1月にはGII.4を原因とする事例が多発した。他自治体も本県と同じ傾向であることから、全国的にノロウイルス流行の主流がGII.2からGII.4へ推移している可能性が推察された。

なお、GIとGIIが共に検出された1事例は飲食店で発生し、生カキの提供が確認された。